

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の『その人らしさ』『生き方』『したいこと』を尊重し、地域に開かれたホームとして工夫して取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンス等で意見交換し共有できるように日常的に努力している。センター方式を取り入れて統一した自立支援ができるよう取り組んでいる。..		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議やお茶会、面会時に話しあい共有している。家族も参加して一緒にケアプランを考え、共有できるように取り組んでいる。		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶を交わしたり、推進委員をお願いしたり、ボランティアを受け入れ(編み物やマスコット作りなどボランティアの得意なこと)たり夏祭りやお茶会にも呼びかけて一緒に楽しい時間を過ごしている。3階の生活支援ハウス住民が気軽に出入りし、交流している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りやお茶会には、近所の老人会や民生委員、近所へ参加の呼びかけを行なっている。防災訓練時には、訪問をして協力を依頼している。保育園児との交流が定着し、運動会やひな祭り行事に積極的に参加している。食料品を近くのスーパーやセブンイレブンに行き、馴染みになっている。近くの神社の初詣やお祭り、健康祭りに参加している。		地域交流室を地域のサークル活動などに提供している。入居者も参加の呼びかけがあれば、講演や催し物などに参加している。継続して取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日常的なお付き合いを通じて、気軽に相談を受けられるようにしている。(からたち相談所)趣味などを通じて生きがいになるようなボランティアなどを受け入れ交流している。		
J				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員がアンケートにとりくみ、研修のテーマや相互に業務の内容について、点検・評価につなげ、皆が意見交換できるように取り組んでいる。職員の提案や意見を尊重し、管理回答で議論し運営改善に役立てている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年新たに地域の方が推進委員に参加した。毎回、各ユニットごとに報告をし、率直な意見交換を行いサービスの質の向上につなげている。推進会議の経過を職員会議に反映している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしんケアセンターから運営推進会議に参加している。生活保護関連など連絡を密に行っている。実践者研修や管理者研修への参加、感染症胃腸炎の対症法や防止法の講習への参加を積極的に取り組んでいる。介護相談を受け入れ、助言・交流を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	すでに利用している利用者がいる。日常的に連絡を取り合っている。		関連法の学習を深めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県や関連の学習会に積極的に参加し、昨年に続き全職員学習会を行なった。日頃のケアのありかたについて、意見交換をし積極的に取り組んでいる。		今後も定期的に学習会を開いて研鑽していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ここ2年ほど新しい入居者はいないが、本人、家族に十分説明をし、納得された上で入居されている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>安心できる場所(居室や事務室)で積極的に話を聞いている。介護相談員やボランティアの協力も得て思いを聞きだして運営やケアに反映している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行している「ひまわり便り」、面会時・定期受診時・家族会の時に近況報告や活動等を伝えている。また、行事にも参加を呼びかけ、日頃の様子が理解できるように努めている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や定期受診時、運営推進会議などあらゆる場面で率直にお話しできるよう職員全員が取り組んでいる。また、行事の時には、家族席を設け自由に交流できるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常勤、非常勤職員のそれぞれの会議、育成面接等で意見や提案を聞いたり努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況に合わせて勤務延長や柔軟な時間帯を組んだりしている。職員の休暇希望に添えるように努め、管理者が臨機応変に対応できるようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>「ひまわり便り」に掲載。入居者に挨拶を行う場面作りをしている。</p>		<p>全国的にグループホーム職員の離職率が高く人材確保が困難。研修の充実はもとよりリフレッシュできる環境づくりが必要。さらに、一事業所の努力だけでは限界があり、各事業所と連携し、国に介護報酬引き上げを要望していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症の疑似体験を行う。年間計画を通じて全員参加を目標に内外の研修に取り組んでいる。疑問や課題など現場でも気軽に助言している。職員の提案で連絡・ケアノートを活用している。</p>	<p>年間計画を立てて進めて いきたい</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>千葉市高齢者GH連絡会主催の学習と交流に参加、区内のグループホームとの活動交流を行ない、学んで取り入れている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>育成面接で希望や要望を聞いている。職員の希望を取り入れてユニットごとの固定化はしていない。</p>	<p>歓送迎会だけではなく、飲み会交流の場を設け職員が会議だけでなく本音の出る場を設けていきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>内外の研修に積極的に参加をしている。また、GH内の研修も行い年間計画が定着しつつある。会議では、職員が業務内容を提案できる場になるよう意識的に行っている。(心肺蘇生、感染症対策、手洗いうがい、記録の書き方、介護技術他)勤務では、本人の希望を大事にしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>対象者なし</p>	<p>サービス利用が終了しても、ホームの行事にきてもらったり、遊びに来てもらう等、継続的なフォローができるように努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>対象者なし</p>	<p>これまでの生活の中で、どんなことで家族が苦勞を強いられたか、介護サービスの利用状況などを、ゆっくりと聞くよう努めたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対象者なし		相談時の本人・家族の思いを聞き、状況把握して これからどうしていきたいのか、それには何が必要かを判断して、サービスの提案をしていく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	対象者なし		入居の際の本人の生活環境を整えていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と同じ立場で生活ができるよう意識しながらスタッフとして家事などを行っている。		介護職という立場から、寄り添ったケアができるよう心がける。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や外出時、ホームでの本人の生活状況など、気がついた事があれば伝えて、家族からの意見をもらっている。家族のケアカンファレンスの参加。		運営推進会議や、ケアカンファレンス、計画づくりなど、家族になるべく参加してもらうようにしている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族・本人の思いや状況を見極めながら、行事に家族を誘ったり より良い関係を継続できるよう努めている。		編み物サークルやフラワーアレンジメント等、家族にもなるべく参加してもらうように取り組んでいる。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年1週間位実家へ帰る利用者さんがいる。一人一人の生活習慣を尊重している。毎月通っている美容院や、以前入居していた場所の友達に散歩がてら会いに行くことの支援。		暑中お見舞い、年賀状などを書く。電話のやりとりを支援する。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	おやつや食事の時間時の声かけを支援したり、利用者同士が気遣える場面作りなど支援している。		個性が強くなかなか皆と一緒に何かをすることが難しい方もいる。今後どのように接することで 皆と一緒に生活していけるか思案中。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まで左記事例がない。		今後あればサービス利用が終了しても、ホームの行事にきてもらったり、遊びに来てもらう等、継続的なフォローができるように努めたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを色々な生活の場面の中デ聞き取って支援に活かしている。、		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの本人の生活歴など、家族に記入してもらったり、話を聞いたりしている。		できるだけ家族の協力を得て希望をかなえてあげたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活記録やバイタルチェック表を見ながら把握している。申し送り等で、夜間の状態を聞き、不眠や便秘など状態をみて 1日の過ごし方に対応できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス(3ヶ月に1回)には、できるだけ家族も参加してもらえるように誘っている。カンファレンスで出た意見は、介護計画に反映している。		日常生活の中で話した事、態度をキャッチし より良く暮らすヒントにしていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランを定期的に見直しているが、急な変化に対応したプランの見直しは遅れている。		速やかな計画変更まではできていない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日誌・生活記録・バイタルチェック表・排泄チェック表を記入し、利用者一人一人の状態の把握に努めている。又、ケアプランの実施ができるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院の患者組織の有償ボランティアの協力があり、突然の家族との外出など、臨機応変に行っている。生活相談員や訪問看護ステーションに相談し、アドバイスをもらい家族に情報を提供している。		時折 利用者本人と家族のみで外出や外泊をして頂き、気分転換を図ってもらう。又、家族の方にも 本人の現状を知ってもらえるよう職員も支援していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日々の生活の中で、「楽しむこと」を支援し、外部の人の協力を得ながら実現させようと努力している。生協や魚屋、肉屋と契約し配達してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通所リハビリ、からたち生活相談員の活用、介護ショップ、NPO法人のオムツ利用、有償ボランティアによる通院の付き添いなどの活用を支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員や行政への働きかけ等、協働で行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族から相談があれば情報提供を行い、共に考える支援を行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>連絡ノートを作成し、家族の方や医師、看護師にも受診理由や利用者の状態を理解してもらっている。提携病院の医師の中に認知症専門医の人数が少ない。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ひまわりの看護師、医療連携を行っている訪問看護ステーションの看護師と毎週状況確認を行い、健康管理が出来ている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>こまめに入院している病院側と連絡を取り、情報交換や相談をしている。退院時には、帰所後生活できるよう病院でリハビリを受けて利用者が負担にならないよう連携が取れている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアについて学習会を行っている。</p>		<p>個々に家族と話し合いを行っていききたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ターミナルケアの指針について話し合いを進めている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>対象者がいなかった</p>		<p>今後あった場合、移り住む場のスタッフ、関係者と事前に話し合い、情報交換を行っていききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには個々に注意している。気がついたらお互い注意し合うよう努めている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせて自己決定ができるような場面を作り支援している。(衣類を選ぶ、食事の献立、味付け等)	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を見ながら、できるだけ本人のやりたいことを実現できるよう支援している。(散歩、外出など)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容を希望される場合は家族にお願いしたり、スタッフ付き添いでお店に行けるようにしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食はこの取り組みを行っている。食事作りを職員と一っしょに行っている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	間食が好きだけど食事制限のある利用者さんに、冷蔵庫のスペースを少し提供して、アイスやジュースなど保管している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>なるべくトイレで行えるよう個々のパターンに応じて声かけ誘導を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴を希望される方には、できるだけ対応するようにし、入浴の意思を表さない方には、声をかけて入浴をすすめている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>睡眠状況を把握し、利用者の表情や疲れ具合をみて、休息など声を掛けている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>ケアプランにのせたりして、担当者が積極的にすすめられるようにしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者がお店の方とお金のやりとりをしたりする機会をつくるようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>職員の体制が十分ある時は、外出を希望する利用者さんと買い物にいたり、散歩に行ったりしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個別外出として、利用者希望する外出先に行くことがある。また、バス旅行を利用者の希望を聞き、無理のない企画で行き先を考え、家族同伴で行なっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族へ手紙を書く事をすすめ、支援している。希望する入居者さんには電話で家族と連絡をしてもらっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちの訪問があれば、居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県の主催する身体拘束廃止研修を受けてきた職員が、勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・窓の鍵は施錠しないようにしている。フロアにおける見守りや、職員の連携を強化するようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フラット外に出ていくことの多い利用者の方には、何気なく見守りをしたり、声かけをしている。又、職員同士連携して所在確認を行っている。		行く事を引き止めるのではなく、できる限り外に出る事を継続していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	塗薬など、本人がある程度の管理ができることを確認してから、本人の必要な時に本人が対応できるように支援している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤薬などがあった時は「おっとはっと報告書」を作成し、職員全員が情報を共有できるよう努め、予防策を検討している。		おっとはっとの状況がより詳しく解るように、書式変更をした。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会を年2回位行っている。事故発生時の連絡方法、対処マニュアルがある。		応急手当の勉強会を利用者さんと一緒に行いたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。地域の人達にも交流会開催時をお願いしたり、ピラを配布して協力を募っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営推進会議や面会時、又 電話連絡等で家族と話し合っている。カンファレンスに家族も参加して頂くようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子に、他スタッフと情報を共有することに努めている。記録にも残して全スタッフが共有できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が内服している薬をバイタルチェック表に記入して、全職員が把握に努めている。排便状況を常に申し送り、下剤の調整をその都度している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな入居者の状態観察に努め、その他全入居者に対しても水分量や食事、体操などで予防する取り組みをしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけや見守り、一部介助等 個別対応で口腔内の清潔に注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3回の食事量の確認をし、変化を見逃さないようにしている。不足している日には小さいおにぎりを作ったり、おやつ等で対応。本人の嗜好合に合わせた種類をあわせて水分の摂取方法を考え、困難な人には、チェック表を記入し全職員で支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後など、うがい手洗いをを行うようにしている。又インフルエンザの予防注射を行ってもらっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に食器や冷蔵庫内の消毒、清掃を行い衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームの位置がわかりやすいように看板を設置している。玄関周り等に様々な花を植えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり季節を理解しやすいように、大きなカレンダーを用意したり室内が暗すぎたりしないよう対応している。TVの音量に注意している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やTV前の空間、洗濯場横のベンチ、台所にもイスを置く等して共用の場所でもそれぞれに合うような居場所を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の居室は本人の使い慣れたものや好みの物を置き、本人が安心して暮らせるように配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、エアコンの調整などまめに行っている。トイレに窓がないため臭いが残りやすい。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全てバリアフリー。トイレは車イス用1ヶ所、他2ヶ所ある全てテスリ付。台所も車イスで使用できるようにしてある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	記憶をなくしたことへの対応に食事メニューや洗濯の受け渡しチェックを書いてもらったり、カレンダーをつくって記入するなどの工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	近所の方から花や野菜などいただいたものを庭に植えたり、ベンチにおいてゆっくり楽しめるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)